

「幸福を実現するために」

三重県大台町立大台中学校三年 尾上恵里佳さんの作品より抜粋

私が三歳の頃である。ひとつ浮かんでくるのは、祖父の遺体の前で涙を流していた叔父の姿である。それは、叔父の右手に開することでないだろうか。時折考えるようになった。叔父と叔母が幸せを築いてきた話を母から聞いた。叔父は、二十代の頃、仕事中に取り扱っていた鉄材が右手に落ちてきたそうだ。そして、右手を失った。叔母とはその後、出会った。叔母は大学生で、アルバイトをしていた。叔父がいた。二人は互いに

惹かれあい、結婚を考えるようになった。そんな時、曾祖母の余命が僅かであることがわかり、意を決して叔父は結婚の許しを得るために祖父母のもとを訪れ、右手が義手であることや生い立ちを正直に話した。最後まで領きながら静かに聞いていた祖父は「これからよろしく頼みます。家族として、何でも遠慮なく言うてください。」と伝えたらしい。しかし、祖母は「私は認めません。期待して大学で勉強させたのに、これでは幸せになれ

ません。」と言い放った。祖父は間髪を入れずに、「何も言うな。これからは、家族や。」と返して、祖母を部屋から出した。叔父が正直に自分の全てを語り、心の底から結婚を望む気持ちが祖父に伝わったのだろう。それから、一年半後、曾祖母に続くように祖父は他界した。遺体として自宅に帰ってからも、叔父はずっと正座をしたまま祖父の傍らにいた。三歳の私が目にしたのは、その姿だったのだ。叔父は葬儀の時左手に右手を添えて棺を担いでいた。

東秩父村人権擁護委員

神田 勝雄

和紙ってなに？ 教えて、わしの博士！

ユネスコ無形文化遺産登録された細川紙・本美濃紙・石州半紙。その中の本美濃紙ってどんな和紙？お教えしましょう！



【本美濃紙】

①原点は紫式部も褒め称えた美濃和紙

和正倉院に保管されている日本最古の紙は、美濃市の付近で漉かれた戸籍用紙です。美濃和紙は、1,300年も昔の紙であるのに、繊維がむらなく絡み合い、現代のものと同じように柔らかみのある独特の肌ざわりを持っています。

中世には、美濃の紙名が頻繁に登場するようになります。地域によって、多くの紙が生産され、技術も発展していきました。その頃には幕府御用達の紙として重宝されていました。

原料に使用しているのは、楮（こうぞ）のほか、三椏（みつまた）や木材パルプなどがあります。

②昔から変わらぬ、色合い、地合い、風合い

美しい、柔らかく強い、求められる要素を極めた紙、それが本美濃紙です。陽に透かすと、繊維が整然と美しく絡み合っているのがよく分かります。川を流れる質の良い豊かな水、最高級の茨城県産大子那須楮、道具は木曾ヒノキと硬い真鍮の漉き桁、竹のひごをそぎつけた漉き箕などを使います。漉き方は縦と横に揺振って漉く複雑な方法で繊維を整然と絡み合わせています。書院紙と呼ばれる本美濃紙は、昔から美濃市牧谷地区で漉かれてきました。

また、本美濃紙は他紙と違い、「板干しによる乾燥」が要件となっています。そして、他紙の楮は外国からの輸入が多いなか、ユネスコ三紙はすべて国産です！

私たちの自慢！

東秩父村へおいでよ！みんな一観光情報一

和紙の里で楮かしき一伝統をその目でチェック！一



東秩父村和紙の里では、正月恒例の「楮（かす）かしき」を1月4日（金）から10日（木）までの7日間行います。

楮かしきとは、和紙の原料となる楮の皮をむく作業で、和紙の里では毎年新年最初の作業として行っています。作業は、楮を約1メートルに切りそろえ束にして大釜で蒸し、蒸しあがった枝の皮をむくというもので、伝統ある「細川紙」を漉きあげるうえで欠かせない作業です。毎年、和紙の里のスタッフやボランティアの方々の手によって行われています。1年の内に7日間しか行われぬ作業です。体験可能ですので、ご希望の方は和紙の里へお問合せください。

また、見学も自由ですので、ぜひお越しください。この機会に1300年前の伝統を見にタイムスリップしてみませんか？細川紙の魅力がより一層伝わるはずです！

日にち 1月4日（金）～10日（木）

場所 東秩父村和紙の里 問合せ 和紙の里 ☎ 82-1468

